

第 8 回 那覇空港調査連絡調整会議  
議事録

- 1 日時 平成20年1月31日(木) 14:00 ~ 15:00
- 2 場所 沖縄八 - バ - ビュ - ホテル 2階 白鳳の間
- 3 出席者
  - (1) 委員

内閣府沖縄総合事務局開発建設部長	吉永 清人
国土交通省大阪航空局飛行場部長	傍士 清志
沖縄県企画部長	上原 良幸
  - (2) 内閣府沖縄振興局からの参加

内閣府沖縄振興局参事官(振興第三担当)	鈴木 勝
---------------------	------
  - (3) 国土交通省航空局からの参加

国土交通省航空局飛行場部計画課長	干山 善幸
------------------	-------
  - (4) 事務局

内閣府沖縄総合事務局開発建設部港湾空港指導官	成瀬 英治
内閣府沖縄総合事務局那覇港湾・空港整備事務所	津田 修一
国土交通省大阪航空局飛行場部次長	八木千津男
国土交通省大阪航空局那覇空港事務所飛行場課長	宮里 徹
沖縄県企画部参事	滝澤 裕
沖縄県企画部交通政策課長	知念 英信

4 議事

- (1) 開会
- (2) 出席者紹介  
(略)
- (3) 議事

【上原部長】

それでは、私の方で議事を進めさせていただきます。お手元に次第がございます。  
今日は那覇空港の総合的な調査の取りまとめ及び那覇空港の総合的な調査の終了に  
ついての1件の議事でございます。  
それでは、内容につきましては事務局よりお願いします。

【滝澤参事】

(資料説明 略)

【上原部長】

議事に関しまして事務局より説明が終わりました。

ただいまの説明内容につきまして、ご意見、ご質問等ありましたらお願いします。

【鈴木参事官】

内閣府沖縄振興局鈴木でございます。

実はこの調査連絡調整会議にはじめて参加させていただきました。なおかつ、今日でとりまとめということで今まで出た質問かもしれませんが、改めてお聞きします。

PIをステップ1, 2, 3と続けてきまして、私の印象としますと、理解できたあるいはある程度理解できたという声が比率的に非常に高いなど、それからステップ3で飛躍的に意見が増えたということで、この資料を見る限りは、県民等の理解が非常に進んでいるのではないかと思います。こういった資料にするとなかなか生の雰囲気や伝わりにくいようで、実際ステップ1, 2, 3までパブリック・インボルブメントを実施したなかで象徴的な出来事でもいいのですが、反応とかそういったものをご紹介できるとありがたいと思います。

【滝澤参事】

PIステップ3に至りまして、意見が今までの10倍出るという形で、だいぶご意見をいただいております。

特にPIが始まる前に、那覇空港では中華航空の炎上事故が起こりまして、あの事故が仮に滑走路上で起こっていたらという危機感が県の観光業界等を中心に結構出ていたということもございます。

生の雰囲気としては、実際に出てきた意見を読みますと、先ほど理解できたかというチェックだとか将来何を重視するかというチェックをするだけの項目の他に自由意見を書いていただく欄がございまして、普通言葉で書くのがいたいへんなもので、その欄には記入せず、チェックだけでそのまま出してしまうアンケートが多いんですが、今回特に、実際に自由にご意見を書いていただくといった意見の数が、非常に多うございまして、全体で約1万件いただいた中、自由意見のところに約8千以上の回答が書かれていました。

その中では、早急に滑走路が必要であるというご意見が多かったほか、一部にはやはり自然環境についてどうなっているのか不安であるという否定的あるいは慎重なご意見というのも一部に見受けられております。

あとは肯定的なご意見のなかでも、工期として一応まだ試算でございますが、10年という工期を示したところで、なんでそんなにかかるのかと、もっと早くやるべきだという意見だとか、あとは海上空港で騒音問題が少ないということで示したんですけども、いやそうでもなくて近隣では結構騒音問題もあるから、騒音に関しても沖合に展開して無くして欲しいという声もございました。

それ以外にあとは、滑走路増設ではなくターミナルビルの使い勝手に関するご意見とか、アクセス施設に関するご意見と、こういったものも中に含まれていたと言うような状況でございます。

以上でよろしいでしょうか。

**【鈴木参事官】**

新規の滑走路増設でこういった本格的にパブリック・インボルブメントをやられたのは初めてに近いですが、この数字に表れているとおりに、県民等の理解が大変良く得られたと理解してよろしいでしょうか。

**【滝澤参事】**

内容につきましては、ご理解いただけたんじゃないかと思います。

特に今までのステップ1, 2と違いましてステップ3で初めて沖合に出すという具体的な施設計画の絵を出したものですから、この絵が出たことによってだいぶ関心が高まって、内容をお読みいただけたと実感しております。

**【鈴木参事官】**

オブザーバーでありますけども平成15年度から実施されたということで関係者の方々に、こういった空港整備に関する理解を得られたことに対して感謝を申し上げます。

**【上原部長】**

ありがとうございました。他にございますか。

**【傍土部長】**

今の鈴木参事官のご質問と若干関連いたしますが、先ほどのご説明を聞かさせていただく限りでは、大変にステップ1, 2と比べてステップ3は飛躍的に伸びているという好印象を抱くわけですが、そういった感覚とは別に専門家の先生方で構成されるPI評価委員会の委員の先生方のご評価としてはこういった意見が出たのか教えてください。

**【滝澤参事】**

PIをかける前とかけた後の状況に関しましてPI評価委員会を設けてそれぞれについてご意見をいただきました。昨年、12月18日にこのハーバビューホテルで実施させていただきましたが、特にステップ2をさらに10倍超えるご意見が出たということ

で、その点につきましては高く評価をしていただいて、実際にどういう方法で周知をしたのかというご質問、あるいは、いろんな周知の方法をされていてがんばったという褒めの言葉もいただいています。

サンプル数が多いということはアンケートの信頼性が増すということと、先ほども申しましたがただ単にチェックだけではなくて、実際に8千人の方が表面のチェックだけでなく裏面に意見を書いているという点でアンケートとしては信頼度があるのではないかというご評価をいただいています。

一方、意見に対する対応方策案については、同じような表現があるのでもう少し丁寧に回答すべきというご指摘を受けまして、最終的にP Iステップ3の評価報告の対応案を変更したというのもございました。

そのような形で今回1万2千5百通のアンケートをいただいております。

全体として非常に信頼性の高いP Iができたのではないかというご評価をいただいたということでございます。

**【傍士部長】**

はい、よく分かりました。ありがとうございました。

**【上原部長】**

他にございますか。無いようですので、ただいまの議事につきましては、原案のとおり承認するというところでよろしいでしょうか。

それでは原案のとおり承認ということで、本日をもって那覇空港の総合的な調査を終了するとともに那覇空港調査連絡調整会議を解散いたします。

議事は終了でございますけれども、他になにかございますでしょうか。

それでは、干山課長お願いいたします。

**【干山課長】**

オブザーバー参加させていただいております航空局飛行場部計画課長の干山でございます。せっかくの機会ですので私からも一言申し上げたいと思います。

このようにP Iステップ1から3を沖縄県が主体となられて進めてこられた結果、地域の声も的確に把握されたことについて、皆様のご努力に敬意を表させていただきたいと思います。

私どもとしましてもP Iの活動を通じまして、地域の方々の現空港の能力向上に關しましての期待とか、あるいは経済界の皆様のご期待とかを感じてきましたし、また、地元で取り組んでおられる沖縄県庁の皆様方の熱い熱意というものを非常に強く感じている次第でございます。

現在、中国を中心とするアジアの経済発展が急進する中で、今がそのポテンシャルを取り込むチャンスという思いから積極的に取り組んでおられると思いますが、私ど

も航空局としましても地域の皆様方の熱い思いに応えるように、これからもできる限り努力していきたいと考えております。どうぞよろしく申し上げます。

【上原部長】

はい、どうもありがとうございました。  
それでは鈴木参事官もございましたらお願いします。

【鈴木参事官】

先ほどと同じようなことですが、沖縄県にとっては沖縄振興の観点から申し上げますと、那覇空港というのは産業あるいは観光・交通、すべての窓口でありますので、大変大切な玄関といえますかゲートウェイだと思っております。

その那覇空港の将来をどうするかということについて、まずいろいろな案をお作りになって、お示しした。更にこれを県民等の方々から多大なる理解をいただいたということは大変評価すべきことではないかと思っております。

もちろん技術的にも、あるいはいろいろなことで課題はまだまだあると思いますが、今後とも国あるいは沖縄県のほうで連携しまして、多大なる成果が挙げられることを期待しております。どうもありがとうございます。

【上原部長】

はい、どうもありがとうございました。  
それでは吉永部長も一言おねがいします。

【吉永部長】

本日をもって総合的な調査については一応のとりまとめが出来たということで、関係者の皆様のご苦勞に深く感謝を申し上げたいと思います。

今日とりまとめたものが次のステップでどういうことになっていくかということについて若干我々で考えていることをご説明したいと思います。

これから整備主体であります国、総合事務局と大阪航空局になるわけですが、こちらのほうで、3つの複数案がP Iの中で紹介されています、この案を基本として、絞り込みを行うということが次の作業になってくるかと思っております。

それについては県も含めてこの三者で協議する場を作って、調整をしながら検討していきたいと、その絞った案については、P Iという形で県民の皆様にもご紹介して、いろんな意見をいただいて進めていく形になるかと、基本的には、いわゆる言われております構想段階の作業にこれから着手していきたいというふうに考えております。

関係者の皆様方につきましては、引き続きご支援、ご協力をいただきたいと思います。

いますので、よろしくお願いいたします。

なお、別途記者レクを用意していますので、記者の方はよろしくお願いいたします。

【上原部長】

ただいまの吉永部長のご発言は、この後なんらかの今後の展開について、ペーパーが出るということによろしいわけですね？

【吉永部長】

はい。

【上原部長】

以上で議事を終了します。

先ほど干山計画課長、それから鈴木参事官からコメントをいただきました。まさに沖縄の戦後最大のプロジェクトといってもいいこの事業につきましては、国と県が連携して取り組むということが最も重要であると考えております。

今後どうするかにつきましては、後ほど沖縄総合事務局、大阪航空局、沖縄県の3者で記者会見を行いたいと思います。

議事につきましてはこれで終了いたします。

ありがとうございました。

【知念課長】

皆様どうもありがとうございました。これをもちまして第8回那覇空港調査連絡調整会議を終わりますが、報告書の誤字・脱字なりの軽微な修正につきましては事務局に一任をお願いしたいと思います。

それから、メディアの皆様にご案内ですが、この会が終わり次第、ほぼ10分後、場所を金鷄の間に移して記者会見を予定しております。よろしくお願いいたします。

これをもちまして終わります。